

# 愛知県環境影響評価審査会小牧岩倉ごみ処理施設部会会議録

## 1 日時

平成22年10月14日（木）

午後2時から午後3時まで

## 2 場所

愛知県自治センター 5階 研修室

## 3 議事

- (1) 小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価準備書について
- (2) その他

## 4 出席者

### (1) 委員

北田部会長、井上委員、那須委員、成瀬（治）委員、長谷川委員  
（以上5名）

### (2) 事務局（愛知県）

（環境部）伊藤技監

（環境活動推進課）打田課長、近藤主幹、伊藤主任主査、高橋主査、  
後藤技師、村田技師

（大気環境課）松橋主任主査、石原主査

（水地盤環境課）加藤技師

（自然環境課）小川主査

（資源循環推進課）西尾主幹、安井技師

### (3) 事業者等

（小牧市）仲根課長

（小牧岩倉衛生組合）丹羽課長、平岩技監、後藤係長、岩本主事

## 5 傍聴人等

傍聴人9名、報道関係者1名

## 6 会議内容

- (1) 開会
- (2) 議事

ア 小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価準備書について

- ・ 会議録の署名について北田部会長が、成瀬（治）委員と長谷川委員を指名した。
- ・ 資料 1(小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価準備書等)、資料 2(前回審査会（平成 22 年 9 月 14 日）における指摘事項及びその対応)、参考資料（小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価準備書に対する意見の概要等）について、事務局から説明があった。

< 質疑応答 >

- 【長谷川委員】 （ダイオキシン類の冬季の環境大気調査結果における発生由来について）資料 2 の別添資料の図 1 では、環境大気ではダイオキシン類の同族体のうち、08CDD が非常に多いが、何由来のものか。
- 【事務局】 一般的に、08CDD は、水田除草剤を製造する過程で生じた副生成物であると言われている。現在使用されている除草剤には 08CDD は含まれていないが、過去に使用された除草剤の成分を含む土壌に由来する可能性がある。
- 【長谷川委員】 土壌に残っている 08CDD が、大気質で確認されているのか。
- 【事務局】 大気質の調査でダイオキシン類が付着した粉じん等を捕集した場合は、検出されることになる。
- 【成瀬（治）委員】 ダイオキシン類について、各季の測定期間は何日間か。
- 【事務局】 大気を 7 日間捕集し、分析している。
- 【成瀬（治）委員】 ダイオキシン類の付着した土が粉じんとなって、強い風で飛散した日が、7 日間の測定期間中にたまたまあったという場合と、同じような風況が 7 日間続いた場合では意味合いが違うと思うがどうか。
- 【事務局】 7 日間連続してエアースAMPLER で捕集したサンプルを分析している。従って、大気質のダイオキシン類の濃度は、7 日間の平均的な値を示している。
- 【成瀬（治）委員】 検出されたダイオキシン類は、除草剤に由来するダイオ

キシソ類が粉じんに着着して出てきたものであり、環境センターの排ガスに由来するものではないと考えてよいのか。

【事務局】 そのように推定されると考えている。

【長谷川委員】 （新設される工場棟の地盤を支える擁壁について）資料2の4番の指摘事項では、擁壁は5mの直壁ということで非常に高く、また調整池の付近でもある。直壁にしてツル植物を植える場合、往々にして外来種を使用することが多い。例えば、緩斜面にして在来の樹木を植栽するという考え方もあるが、こうした検討は行ったのか。

【事業者】 ご指摘の擁壁については、検討した結果、狭い土地の有効利用を図るため、緩斜面ではなく、直壁を採用することとした。また、早期に緑化を図るため、ツル植物を植栽することとした。なお、ツル植物は在来種を使用する予定である。

【成瀬（治）委員】 （大気質予測モデルのイメージ図について）資料2の5番の指摘事項のイメージ図は分かりにくい。例えば、ある平面を切った図であるのか、それともある断面を切った図であるのか、説明しておく必要がある。

【事務局】 平面のイメージ図である。

【北田部会長】 事務局からは平面のイメージ図との説明があったが、風向・風速は三次元で計算されているので、この点も注意されたい。

【北田部会長】 大気質予測に用いた移流パフモデルでは、連続的に出てくる煙を1秒ごとのパフとして計算したと解釈してよいのか。

【事務局】 1秒ごとに煙突から出たパフをマスコンモデルにより1秒ごとに連続的に動かして、各格子での計算結果を積分して1時間値の濃度を算出している。

【北田部会長】 野口児童遊園の昼間の騒音調査結果が環境基準値を1dB上回っている（準備書376ページの表7.2.5(1)）が、どのようなことに注意したらよいのか。

【事務局】 一般車両の走行に伴う騒音もあるが、事業に伴う騒音は極力低減に努める必要がある。

【成瀬（治）委員】 現状でも基準値を超えているので、これを大幅に上回るようなことは避けてほしい。それほど大きな影響はないと

思うが、近くに住居等があつて、就寝が妨げられるなどの住民の生活環境へ影響を与えることは避けてほしい。

【事務局】 野口児童遊園の付近に住居等は存在していない。事業者が行う環境保全措置に関して、工事中では掘削土量の削減による工事用車両台数の低減など（準備書 408 ページの表 7.2.19）、また、供用時では朝・夕の交通量増加時の廃棄物等運搬車両台数を抑えるなど（準備書 417 ページの表 7.2.26）を示しており、事業に伴う負荷の軽減のため、こうした措置を確実に実施していく必要があると考えている。

【北田部会長】 ごみ焼却処理方式は、比較検討によりシャフト炉を選定しているが、コークスを助燃剤に使用するため（準備書 9 ページの図 2.2.5）、二酸化炭素の排出量が多くなると思われるがどうか。

【事務局】 方式の選定にあたっては、評価項目（資料編 7 ページ、表 1-2.1）が設けられており、温室効果ガス発生量についても評価されている。シャフト炉はコークスを助燃剤として使用するため、排熱を使った発電等を考慮しても現状のストーカ炉よりも若干温室効果ガスの排出量が増加すると事業者から聞いている。

【北田部会長】 温室効果ガス発生量は現在よりも若干多くなるということだが、それを上回るメリット及び技術選定の考え方を教えてほしい。

【事業者】 処理方式の選定については、準備書（10 ページ）に比較評価を行った内容とその結果をまとめている。敷地が若干狭いため、コンパクトで安定な溶融ができるシャフト炉を選んだ。また、排出される溶融スラグは品質がよく、資源回収性が高いため、環境負荷の低減につながると考えている。

【北田部会長】 その内容の後段のほうがメリットであると考えている。前段で説明された内容について、装置がコンパクトで熱を回収しやすいことを考慮しても温室効果ガス発生量が若干多くなると先ほど事務局は言っている。後段で説明されたことを付け加えていただきたい。

【事業者】 ご指摘のことは評価書に分かりやすく記載するなど対応したい。なお、温室効果ガスの対策として、燃料からの発

生量（準備書 682 ページ）に示しているとおおり、都市ガスも使用することで、コークスの使用量を低減するように努める。

【井上委員】 供用時の汚水は、合併処理浄化槽で処理される（準備書 492 ページ）としているが、微生物を使った処理なのか。

【事務局】 そうである。

【井上委員】 クローズドシステムを採用しており、合併処理浄化槽を使うのは、休炉時の年間 15 日だけであれば、それ以外の期間は、微生物の働きをどのように維持するのか。

【事務局】 合併処理浄化槽は常時稼働し、その処理水は噴霧水として利用することとしており、休炉時の 15 日間のみ処理水を系外に放流する。

【井上委員】 処理前の汚水をそのまま炉へ持って行くわけではないのか。

【事業者】 し尿は浄化槽で処理する必要があり、処理前の汚水を炉へ入れることはない。

#### イ その他

- ・ 事務局から特にない旨の発言があった。

#### (3) 閉会